

科目名	工芸技法論演習			
授業形態	演習	学年	2	
開講時期	2023 年度 前期	単位数	1	
担当教員	宗像 利浩、長谷川 克義			
内容および計画	<p>会津地域は会津若松を中?に城下町が形成され様々な?芸?化が発展してきた。本学での学習機会を?かし、会津漆器と並び国指定の伝統的?芸品である会津本郷焼（陶芸）と、古来日本各地で?われてきた鑄?技法を?いた?芸品の基礎制作演習を行う。これにより、幅広い?芸技法の基礎的な技術を理解するとともに、各素材の持つ表現力を身につけることができる。</p> <p>陶芸演習を 10 時限、鑄?演習を 5 時限とし、陶芸演習では粘土の取り扱いから成形方法、釉薬の特徴や焼成温度と窯の管理について学習し、鑄金演習では鑄金作品の制作プロセスの解説から原型の制作に関する約束事、石膏により型取り方法、鑄込み作業と仕上げ方法について学習し、完成作品について講評を行う。</p>			
1	陶芸演習（宗像）?美の本質を見る力?和?器とは、陶器と磁器の違い			
2	器の基本となる湯のみとめし茶碗を制作			
3	仕上げ			
4	オリジナル作品とスープ?制作			
5	〃			
6	〃			
7	仕上げ?			
8	作品の釉がけ、窯詰め、??れ			
9	窯出し、点検			
10	出来上がった器について、陶芸に対する考察を基にディスカッションを行う。			
11	鑄?演習（??川）鑄?技法概要説明課題の説明、アイデアの検討			
12	アイデア決定、油?による原型制作			
13	?膏鑄型の制作			
14	鑄型焼成、鑄込み（吹き）、仕上げ			
15	仕上げ作業、講評			
教科書				
	タイトル	著者名	出版社	発行年
とくに使?しない。				
参考書	状況に応じ配付する。			
成績評価				
	評価方法			割合(%)
	演習時の理解度（作業内容、自身の作品に対するプレゼンテーション、質疑への対応等）			70
	演習作品評価			30
学習到達目標	演習を通して素材の特性や表現の可能性について直接学ぶ機会とし、伝統的?芸品の持つ意味を理解すると			

	ものに、ものづくりやデザインについて提?するための基礎能?を?につけることができる。?
先修条件	各素材の特徴や制作?程の理解を深めるための予習として、2年前期科?の?芸技法論を受講する事が望ましい。?
実務経験	陶芸担当の宗像利浩講師は、会津本郷焼宗像窯 8 代目当主として、国内外にて作品を発表するとともに高い評価を得ており、受賞歴も多く陶芸界を代表する作家のひとりである。 鋳金担当の長谷川克義講師は、現在公立大学法人長岡造形大学准教授として、鋳金技法を中心に教育・研究にあたっており、前任の東京藝術大学においては鋳金の伝統技法の研究と実践にあたり、公共モニュメント等の制作に携わってきた。
その他	